

# はまぼうふう vol.25 2008.2.21.

石狩浜海浜植物保護センター通信

冬の石狩浜・石狩河口の景観

自然情報カメラ・・・これまで保護センターの開館期間に合わせて自然情報を配信してきたテレビカメラを、今冬は撤去せず、稼働させています。これによって、冬の石狩浜や石狩川河口の様子が、インターネットでリアルタイムに見られるようになりました。冬にはまなすの丘を訪れる時など、天候状態の確認にご活用ください。ただ、映像は無線で送信していますので、吹雪など天候が悪いときは途切れることがあります。ご了承ください。



(石狩浜の画像 保護センターHPより)

1月下旬の凍てつくある日、はまなすの丘付近を歩いてきました。オオワシなどの猛禽類には出会えませんが、カワアイサ、ウミウ、セグロカモメが川面に浮かび、カワラヒワが飛び交っていました。

町はずれから公園入口まで歩いた堤防の上は、所々アスファルトが顔を出していました。園内は積雪もあり、スノーシューを着けてあずまやまで現地調査(?)。雪こそ降っていませんでしたが、海風が強く厳しい調査でした。



(雪に半分埋もれかかったあずまや)

お知らせ

みなさんからのレポートお寄せ下さい。

ボランティアレポートのページを設けました。

- ・浜などでの活動の紹介や報告、PR
- ・観察、調査して気づいたこと、わかったこと、興味深いことなど
- ・海浜(海岸)や海に関する情報諸々
- ・海浜と海、川、森、そして人とのつながりに関する情報諸々

このようなことについて、何か言いたい、伝えたいという方、本通信へ原稿をお寄せ下さい。基本はA4、1ページ分です。前後しても構いませんが、誌面との関係で、当センターで編集することもあります。

展示募集

センター展示室の「みなさんの展示コーナー」で、野鳥・植物の写真や絵、調査の結果報告、昆虫標本など、みなさんに知ってもらったり、見てもらいたいものなど展示してみませんか?

展示スペース: 180×90cm 移動パネル

1面分から最大6面分

展示期間: 一ヶ月間程度。

作品は返却します。

募集対象: どなたでも。

(石狩市外の方もOK。)

応募は随時受け付けます。

当センターへお気軽に問合せ下さい。

自然情報お寄せください。

メールなどで冬の石狩浜の自然情報をお寄せ下さい。いただいた情報は、センターHP等で配信させていただきます。

アドレスは本誌の最後をご覧ください。

「海（海辺）」と「人」とのつながり 2 回目は、「海流」です。

…海の中の川？…

海に「潮流」、「海流」などの流れがあるのはみなさんよくご存じですね。潮流は、月や太陽の起潮力により、1日に干・満2回ずつ起きる海水の動き（流れ）ですが、海流は、洋上の風や大気・海洋間の熱の出入り、地球の自転、陸の分布などが極めて複雑に関係して起きる流れです。私たちが見る海の流れは、このような様々な流れが合成されています。

日本周辺の海流には、図のように「黒潮」系と「親潮」系があります。黒潮には東シナ海方面から日本列島南岸を北上、房総半島沖から太平洋方向に流れ去るものと、対馬海峡を經由し、日本海を北上、宗谷海峡からオホーツク海を南下する「対馬海流」があります。さらに、対馬海流の分流として、津軽海峡を抜けて三陸沖に南下する「津軽海流」があります。親潮にはベーリング海から千島列島、北海道東部に沿って太平洋岸を南下し、三陸沖まで達するもの、親潮から分かれてカムチャッカからオホーツク海に入るものがあります。さらに、対馬海流還流水とアムール川河川水の一部が合流し、南下する「リマン海流」があります。これらの海流は、風による影響を受けていることから、表層風成流といえます。昨年12月下旬、気象庁から親潮が10年ぶりの規模で北に後退し、東北沖の海水温が高くなったと発表があり、新聞報道でサンマ豊漁、サケ不良など、一部海域で漁獲に影響が出たとありましたが、ご記憶にあるかも知れません。

石狩湾には、黒潮系の対馬海流が入りこんでいるということになりますね。過去に行った石狩沖の流況調査では、沿岸部は海岸に沿って北上したり、南下したり、海陸風が卓越しているため、その影響が強くあらわれていますが、沖合から対馬海流の一部が湾内に流れ込んでいるのです。石狩沿岸の潮汐流の速さは、毎秒5cmから10cm程度です。

地球上の物質はすべて循環していて、海（水）も例外ではありません。では、流れていった水は、どうやって戻ってくるのでしょうか？季節風のように、季節的に流れの向きが逆になるのでしょうか？一方通行の流れであれば、いかに海広しといえど上流では水が枯渇してしまいますね。実は、親潮も黒潮も表層大循環流で、季節によって強弱はありますが、1年中流れの方向は変わりません。黒潮は、北太平

洋海流、カリフォルニア海流、赤道海流と続く、亜熱帯循環流を構成し、3～6年かけて循環しているといわれています。親潮も同様に、北太平洋北部を反時計回りに流れる亜寒帯循環を構成しています。

ところで、流量はどのくらいになるのでしょうか。黒潮は、流速毎秒1～2m（人の急ぎ足の速さで世界最強流に入ります）幅100km以上、水深数百mで、流量は毎秒5千万トンです。親潮は流速毎秒0.5m、幅は黒潮ほどではないですが、水深が深いため、流量は黒潮に匹敵する規模だということがわかっています。対馬海流は、流速が最大で0.8m、水深はせいぜい200m、流量250万トンで、冬季に小さく、夏季には大きくなります。毎秒5千万トンの流量は、世界最大のアマゾン川（毎秒平均18万トン）の277倍、ちなみに石狩川（毎秒300トンほど）の16万倍以上となります。ちょっと想像がつかないですね。



独) 海洋研究開発機構 HP より引用

しかも、これらは海洋の平均深度3,800mのうち、せいぜい水深数百mまでの表層の海水の動きで、中層、深層水も循環しています。それぞれが別々の動きをし、特に深層大循環は1980年代になって地球の気候システムを左右していることがわかってきました。海にはまだまだ未知な部分がいっぱいあります。何ともスケールが地球的で、ロマンを感じませんか。 (次回に続く)

\* マメ知識 \*

流向と風向：どちらも方向を示しますが、向きは全く逆をあらわします。流向は流れ去る方向を、風向は風の吹いてくる方向をいいます。つまり、流向が北上流ということ、北方向への流れをいい、北西の風向ということ北西から南東にかけての風をいいます。

冬の自然情報

1. はまなすの丘

下の写真は、市民の方が冬のはまなすの丘に何日も通って、やっと撮った力作です。



安瀬山

(キタキツネ 右が拡大写真 撮影：若松さん)

この地域では、「石狩浜定期観察の会」のみなさんが、植生調査中に巣穴をいくつか確認していますが、その家族でしょうか。厳しい冬を乗り越えて、春にまた出会えるでしょうか。

2. マクンベツ湿原

2月のある日、天気も落ち着いていたのでマクンベツ湿原を訪れました。前日までの降り積もった雪の上に、真新しいスノーシューの跡が。既に先行者がいました。



（冬のマクンベツ湿原の木道）

雪上を観察してみると、ウサギやノネズミらしき足跡、そしてそれを狙うキツネの足跡などがありました。残念ながらワシ達には出会えませんでした。人の行かない冬のマクンベツ湿原は、ヨシなどの植物が雪に覆われ、野生の小動物が支配する世界でした。

3. 石狩川

今年は真冬日が3週間も連続するなど、寒さが厳しい冬です(した)。昔は、全面結氷し対岸まで歩いて渡ったなどと、お年寄りから聞いたものですが、昨今はそのようなことはありません。しかし、例年なら薄氷が石狩河口橋から上流方向遠くにかすかに見える程度ですが、今年は河口橋あたりまで氷が張ることもありました。



(石狩川河口の結氷)



(河口橋から上流方向 右手に志美運河)

その氷の上にはオジロワシが2羽、魚でしょうか、エサをついばんでいるのを見かけました。ほかにはカワアイサ、ウミウ。また、寒さが緩んだ別な日に



(中央の黒い点がアザラシです)

はいにく、かなり距離があって種類までは確認できませんでしたが、1時間ほどのウオッチングでした。

は、氷の上にアザラシがのんびりと休んでいるのが見られました。

これらの自然情報は、いずれも市街地から目と鼻の先にある石狩川下流マクンベツ地区から河口にかけてのもので、こんな近くで豊かな自然に出会える石狩市は、考えようによっては贅沢なまちですね。みなさんも天気の良い日には川辺を散策してみたいかがですか？様々な動物たちとの出会いが待っていますよ。

## 活動のようす&amp;報告

## ボランティア活動グループの立ち上げ

今、センターは冬季休館中ですが、ボランティアのみなさんは冬もホットに活動しています。

先日、石狩浜定期観察の会と石狩ふるさと自然塾修了生のみなさんが、それぞれ会合を開き、今後、組織を立ち上げて、これまでどおりの活動を続けていくことを確認しました。

石狩浜定期観察の会は、来季の保護センター開館前に石狩浜のPRを兼ねて、図書館で海浜植物のパネル展示を計画しています。



また、石狩ふるさと自然塾グループは、春からの活動に備えて、まず、今冬の活動として、昨年12月21日、リーダーの引率のもとに、保護センターから河口まで散策し、冬の石狩浜をウォッチングしてきました。3月にも予定しています。みなさんお疲れ様でした。

## 冬季環境講座

GIS(地理情報システム)を使って、この百年間の北海道の自然環境と土地利用の変化を解説します。

日時 2月27日(水) 午後2~4時  
 場所 花川北コミュニティセンター 2階会議室  
 講師 酪農学園大学環境システム学部教授 金子正美氏  
 費用 無料  
 対象・定員 自然に関心のある方 40名(先着順)  
 その他 事前の申し込みは不要  
 問い合わせ 環境課 tel 72-3240

## 冬の子ども自然観察会

はまなすの丘公園や茨戸川、川の博物館で、冬の川と海の様子を学習し、野鳥などを観察します。

(川の博物館と保護センターの共同事業として開催)  
 日時 3月8日(土) 午前9時半~午後3時  
 集合解散 市役所来客用駐車場 バスで移動  
 費用 無料

対象・定員 小・中学生 20名

(先着順、親子での参加も可、

小学3年生以下は保護者同伴)

持ち物 昼食、スノーシューと双眼鏡(貸出用もあり)、スキーのストック、暖かい格好(スキーウエア、手袋、帽子、長靴など)

申込受付 2月20日(水)~3月6日(木)

申込、問合せ 川の博物館 tel 64-2507

(月曜休館)

## 今シーズンを振り返って

今季、海浜植物保護センターは、展示室の様態替えや正面入り口横とヴィジターセンター駐車場に大型看板の設置、来館者へ海浜植物のタネ配布、市民のみなさんによる活動報告及びパネル展示などの自主企画など、これまで以上に自然情報の発信方法の多様化と充実、強化に努めました。

それらが功を奏したのか、来館者数が8,448名と、これまでの最多(8,552名)に迫る方々が来館しました。

来シーズンも、より多くの来館者のみなさんに親しんでいただけるよう、一層内容を充実するとともに、他のネイチャーセンターやNPOなどの民間団体と連携し、保全活動に取り組む地域のみなさんへ自然情報を発信していきます。

問合せ

4/29~11/3:石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3372 石狩市弁天町48-1 tel.0133(60)6107

申込み

11/4~4/28:石狩市役所市民生活部内 〒061-329 石狩市花川北6条1丁目30-2 tel.0133(72)3240

email. [ihama@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp)

HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>